

これからも人生の指針

妻から夫へ「今までありがとう」

亡くなった家族に気持ちを届ける心の手紙のコンテストで、石巻市蛇田の主婦海上千佳さん(46)の「今までありがとう」が銀賞に輝いた。全国からの応募総数は8177点。震災で夫を亡くした海上さんは「夫への思いを手紙に書くことで、もやもやした心がすっきりした」と話す。天国に宛てた手紙は心の復興を進める一助となっていた。

心の手紙コンテスト

石巻市の海上さんが銀賞

コンテストは冠婚葬祭互助会の(株)くらしの友Ⅱ東京都大田区Ⅱが公募。「第4回つたえたい、心の手紙」と題して呼び掛けた。海上さんは昨夏に雑誌でこのことを知り、早速、筆を手にした。

あの日、夫の吉廣さん(54)は家族の安否を気にして会社から南浜町4丁目の自宅に向かった。一足早く千佳さんも自宅に戻り、大學生の長男と高校生の次男、義母を乗せて蛇田の実家に車を走らせ

た。夫婦はすれ違いとなってしまう。吉廣さんからの連絡はなく、1週間ほどして千佳さんは悟るようになった。遺体安置所で冷たくなった吉廣さんに会えたのは4月26日。学生時代からポ

トに力を注いできた吉廣さんは防水仕様の腕時計を身につけており、主を亡くしても時計を刻み続ける時計は家族の形見となった。「亡くなる瞬間、何が頭に浮かんだのだろうと考えた。きっと子どもたちのことだと思う。それだけ優しい人だから。仏前に手を合わせて入賞を報告した千佳さんは言葉を続けた。

「でもあの人のことだから何を書いているんだって天国で笑っているかもね」。



仏前に手を合わせ入選を報告する海上さん

コンテストの入選は金賞(1点)、銀賞(5点)、佳作(5点)、

入賞(13点)の24点。収録した作品集は4月に発行され、5月から同社ホームページで受け付けし、抽選で1500人に無料配布する予定だ。

心の手紙【銀賞作品】

「今までありがとう」

その時、おっとうの頭に浮かんだことは何だったろうか…。きつと広と直のことかな。

苦しかったよね。悔しいよね。一ヶ月以上も見つけてあげられなくてごめんね。でも私たち三人は、おっとうの顔がはつきりとわかりましたよ。

おっとうの生まれ育った南浜町は全て無くなってしまったよ。

どうして?いつものおっとうは、冷静に物事を判断できる人なのに…。家族想いのおっとうだから、必死に家に戻ったんだね。

「定年になったらいっぱい旅行しよう」って言ってたくせに…。私一人で旅行してもつまらないよ。仲良く歩いている夫婦を見ると悲しくなる。どこにいても目立つ、あの大きなクシャミは、とても嫌だったのに…。今ではとても懐かしい。さみしい。

冗談で「広済寺のお尚さんに戒名をつけてもらいたい」なんて言ってたけど本当にそうなってしまったね。何にでも全力投球だったからたくさんの人達がお別れに来てくれましたよ。信金やポト協会の方々に支えていただき今日まで来ました。そちらの世界でも、きつと皆のリーダーになっているのかな?

「こんな時、おっとうならどうするだろうか」これからもずっと、私達三人の人生の指針となってくださいね。

たった一つ、津波に勝ったおっとうの腕時計。おっとう愛用のその腕時計は、毎朝直之と学校に行っていますよ。

二十一年間本当にありがとう(ご)ございました。またいつの日か、会える時まで…。さよなら。